

研究の背景・目的

北海道の森林面積は554万haと広大な自然を抱いており土地面積の71%、全国の1/4を占める貴重な森林を所有している。現在、全国で間伐期を迎えた樹木が多いが月形町にある演習林においても、実習で伐倒されたまま未利用になっている木や、手を入れなければならない場所も多いです。

そこで、私たちは演習林の周回林道の整備と伐倒実習で出る木材の有効活用を、考えるため活動を行いました。

研究の内容・成果

実践その1 周回林道の現地調査

月形演習林の先輩方が周回林道の補強した階段や林道などは雨や風によって足場が不安定になり、崩壊したりしている場所が多い。

最初は周回林道を2人1組で、刈払い機を使い下刈りしながら谷下まで移動し、狭くなった林道の幅を広げる作業や川の見えない場所は、川の場所が分かるように草を刈り、刈払い機を使えない場所腰ノコを使い作業しました。コンパス林道で倒木していた木や立木をチェーンソーで木を伐採し、足場に使いそうな部分を選んで谷下まで運び足場をつくる作業をしました。

また、周回林道の整備や、飛び地やコンパス林道の整備もしました。飛び地の作業では、草が生い茂っており下刈りをする際にミズナラやサクラの木を傷つけないように気をつけながらの作業でとても集中力がいる作業で大変でした。

実践その2 グリーンフェアでの販売

今年のグリーンフェアでは、コロナウイルス感染症が五類に変わったため、たくさんのお客様が来客されました。森林資源活用班では、シイタケ原木や小物入れなど11種類の品物を販売しました。

動物マグネットやガーデンピックは歩きながらお客様に声をかけて販売する事で、森林科学科の販売コーナーに来てない人にも販売でき、ガーデンピックや、動物マグネットは全て売ることができました。

動物マグネットに干支の動物たちも作って欲しいというご意見もありましたので来年に繋げたいと思います。



写真1 グリーンフェアの様子

実践その3 学校祭での販売

今年の学校祭は、コロナウイルス感染症が五類に変わったため、たくさんのお客様の来客を見越しておりましたが、当日はあいにくの雨であまり沢山のお客様に来ていただくことは出来ませんでした。来ていただいたお客様には私たちの作品を買っていただけたので嬉しかったです。お客様の人数も少なく沢山の商品売ることは出来ませんでした。私たちの前を通りかかったお客様には積極的に声をかけてそれぞれの商品の魅力を伝えて商品売ることが出来ました。



写真2 学校祭当日の様子



写真3 学校祭準備の様子

実践その4 商品開発

商品開発では、自分たちで商品化をするために1からアイデアを出し材料の木材も私たちや先輩方が演習林で伐倒してきたものを使用しました。

1から商品を考えたり、廃材をださない様に工夫したりより、よいものを作るにはどう工夫するべきかなどを考えるのが大変でした。

私たちが今年作ったものを更に改良し、今後の後輩たちに商品化に向けて欲しいと思います。

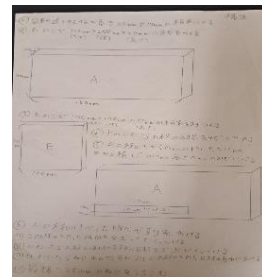


写真3 スマホスタンドとペン立て

今後の課題

毎年、2年生のチェーンソー実習で40本、その他に風雪害による倒木など演習林では木材がでます。その木材をどのように有効活用するかが課題です。販売会を通して木に触れ、匂いを感じていただき木に興味を持ってもらうこと。そのために、木材の有効活用と魅力ある商品を作成することが今後の課題です。販売機会や場所を増やす努力をしていきたいと思っています。